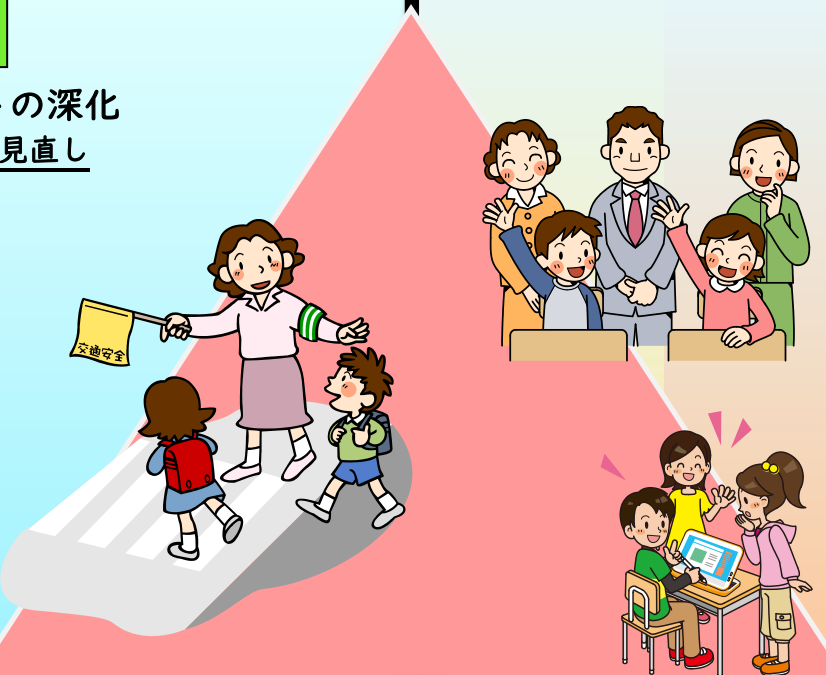


令和2年度 竹田教育事務所 重点方針

1 学校マネジメントの深化

- 「学校マネジメント4つの観点」に基づく学校マネジメントの深化
 - 観点Ⅰ：育成を目指す資質・能力を明確にした学校の教育目標設定・見直し及び重点目標等の設定、家庭・地域と共有
 - 観点Ⅱ：短期及び年度を跨いだ検証・改善サイクルの確立
 - 観点Ⅲ：主任等が効果的に機能する学校運営体制
 - ◇ミドル・アップダウン・マネジメント
 - ◇効果的・効率的なチーム体制の構築
 - 観点Ⅳ：学校・家庭・地域による目標の協働達成（目標協働達成）
- 「地域とともにある学校」への転換（目標協働達成）
 - 家庭・地域と学校教育目標と「学校評価の4点セット」を共有
 - 目標協働達成に向けた学校運営協議会の活用
- 教育課程レベルでの校種間連携の推進
 - 「学校評価の4点セット」による校種間連携の推進
 - 小学校のスタートカリキュラム活用による保幼小連携の推進
- 学校現場の働き方改革の推進
 - 各学校における業務改善のための「1改善運動」テーマを絞り実施



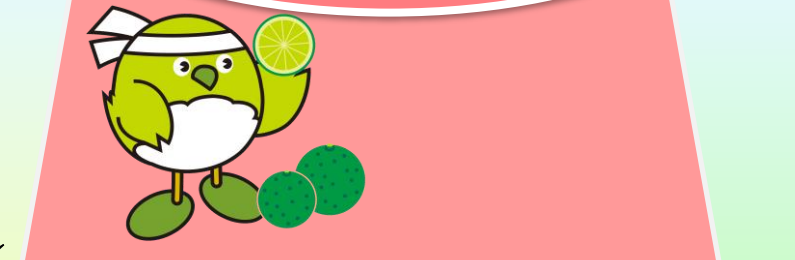
2 授業改善の徹底

- 「新大分スタンダード」による主体的・対話的で深い学びの実現（ALの視点）
 - ① 1時間完結型（「めあて・課題・まとめ・振り返り」の適切な設定）
 - ◇ 単元計画の作成
 - ◇ 単元や題材の「ねらい」に即した「めあて」の設定
 - ◇ 深い学びにつながる「振り返り」の実施
 - ② 板書の構造化
 - ③ 習熟の程度に応じた指導
 - ◇ 「具体的な評価規準」に基づく確かな見取り
 - ◇ 「努力を要する状況」の児童生徒に対する手立ての工夫
 - ④ 生徒指導の3機能を意識した問題解決的な展開
- カリキュラム・マネジメントの充実
 - 教科横断的な単元配列表等の作成及び活用
 - 教育活動の時間対効果と質の向上（行事等の精選見直し）
- 特別支援教育の視点からの授業改善
 - 通常学級に在籍する教育的支援を必要とする児童生徒に対する「個別の指導計画」の作成及び活用、検証・改善サイクルの確立

子どもの
力と意欲の向上

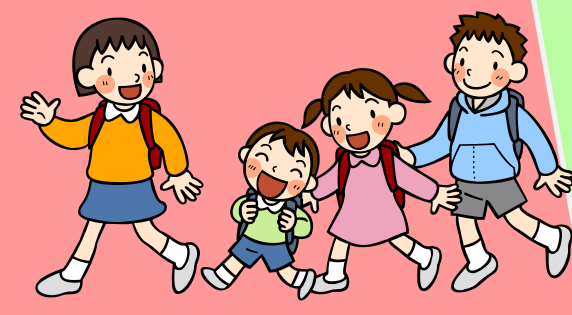
3 体力向上の推進と健康課題への対応

- 運動の習慣化・日常化に向けた組織的取組の推進
 - 「新大分スタンダード」に基づいた「分かる」「できる」「楽しい」授業づくりの推進
 - ◇ 小学校体育専科教員、中学校体育推進員の活用促進
 - 「一校一実践」の取組内容の充実
 - ◇ 学校全体で組織的・計画的に実施
 - 課題のある項目を中心とした体力テストの再実施による取組成果の検証・改善
- 生活習慣の改善とフッ化物洗口の取組拡充
 - 食や睡眠などの生活習慣の改善
 - 歯みがき指導、食に関する指導、フッ化物の活用の3本柱で進めるむし歯予防対策



「芯の通った学校組織」を基盤とした

教育水準の向上



4 いじめ・不登校対策等の推進

- 組織的ないじめ・不登校対策及び校内対策委員会の定期開催
 - 教育相談コーディネーターを中心とした組織的取組の確立
 - 人間関係プログラム等を活用した「居場所」や「絆」を意識した学級づくり
- 専門スタッフ等の効果的活用と福祉関係機関との連携促進
 - SC、S S W、SL等の校内対策委員会への参加や校内研修での積極的活用
 - 地域児童生徒支援コーディネーターの活用推進
 - 教育支援センター（適応指導教室）等との連携強化
 - 福祉等関係機関との連携強化
- 子どもの貧困対策に係る体制整備
 - 市教委、福祉等関係機関との連携